令和6年度文化庁文化芸術振興費補助金
（地域文化財総合活用推進事業）

新春 わかくさ能

―能楽の魅力探訪―

Old History, New Discovery.
NARA CITY
#oldnewnara

高砂 能

八段之舞

シテ 林 宗一郎

観世流 神歌 観世喜正 井戸良祐

能楽解説 森山泰幸

仕舞

東 鶴 齊藤信隆

北 亀 山中雅志

令和七年 一月十三日(月祝)

十三時半開始（十二時半開場）

奈良春日野国際フォーラム 甍 ～I・RA・KA～

入場料 前売 一般：5000円 当日：一般 5500円
学生 前売当日：2000円

全席自由

チケット販売所
- ◉奈良能事務所 Tel：0742(24)5171（不在時留守電対応）
  Mail：npohoujin.naranoh@gmail.com
- ◉オンラインチケット チケットぴあ：Pコード 528253（要手数料）
- ◉奈良春日野国際フォーラム甍（休館日あり）Tel.0742-27-2630
- ◉出演者

令和6年
12月28日(土)10:00開始 (9:45開場)

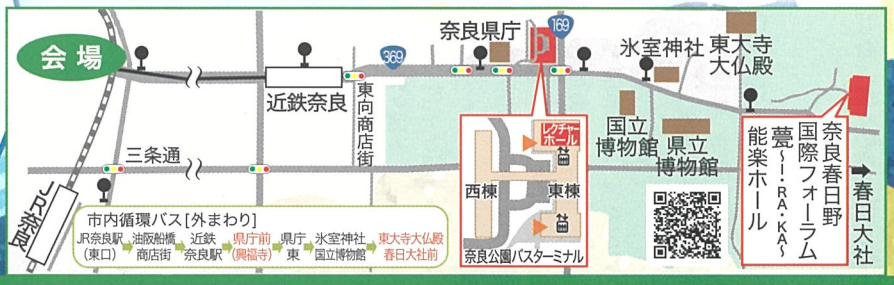
バスタ DE 能楽入門講座

お能って何？

能の講演とワークショップ

奈良公園バスターミナル レクチャーホール

入場料 前売当日 1000円（全席自由）
「チケットぴあ：Pコード 528266（要手数料）」
切符取扱：右上の奈良能事務所まで



※当日来場者用駐車場はございません。身体障碍等、ご事情のある方は奈良能へお問合せ下さい。主催：NPO法人奈良能 後援：奈良市（観光戦略課），奈良県，（公社）奈良市観光協会，（一財）奈良県ビジターズビューロー【お問合せ】NPO法人奈良能 Tel：0742(24)5171（不在時留守電対応） Mail：npohoujin.naranoh@gmail.com

新春わかくさ能

令和七年一月十三日〈月祝〉十三時半始
於　奈良春日野国際フォーラム
甍　～I・RA・KA～

素謡　神歌　翁　観世　喜正　千歳　井戸　良祐　地謡　山中　雅志　上野　朝彦　樹下　千慧

能楽解説　森山　泰幸

仕舞　鶴亀　シテ　齊藤　信隆　地謡　上野　朝彦　田茂井廣道　井戸　良祐

東北　シテ　山中　雅志

《休憩》

能

高砂　ツレ　松野　浩行　シテ　林　宗一郎　ワキ　原　大　原　陸　大鼓　森山　泰幸　太鼓　前川　光範　小鼓　荒木　建作　笛　斉藤　敦

八段之舞　有松　遼一　アイ　善竹　隆平

後見　西野　翠舟　齊藤　信隆　地謡　上野　朝彦　樹下　千慧　田茂井廣道　井戸　良祐　観世　喜正　味方　團

※事情により、演者を変更させて頂く場合がございます。

今回の新春わかくさ能は一年の始まりに相応しい演目をご覧いただきます。

■神歌（かみうた）　翁（おきな）　千歳（せんざい）

まずは素謡『神歌』で幕を上げます。『翁』を謡だけの素謡（すうたい）形式で上演する場合、観世流では『神歌』と称します。『翁』は能にして能にあらず」と言われ、神様に国土の五穀豊穣を祈る儀式であり、芸能の原初の形を残しており、幕開きの曲として別格に扱われる曲です。奈良では薪能の咒師走り、おんまつりの松の下式、奈良豆比古神社の三人翁など、それぞれ独自の伝来を経た『翁』を観ることが出来ます。翁面、衣装など、これらの『翁』も是非ご覧になってください。今回『神歌』は翁を東京の観世喜之家の重鎮、観世喜正が、千歳を大阪の井戸良祐が勤めます。謎めいた謡から、太古の力を感じてください。

〈天下泰平國土安穏　今日のご祈祷なり　在原や　なぞの　翁ども　〈一舞まおう萬歳楽　…

■仕舞　鶴亀（つるかめ）　シテ（主人公）：皇帝

正式な上演形式である五番立では『翁』に続いて上演される演目を脇能と言い、めでたい曲を上演します。能『鶴亀』も脇能の一つです。今回は『鶴亀』を仕舞の形でご覧いただきます。舞台はいにしえの中国、皇帝の宮殿の庭は金銀珠玉に満ち、万民が皇帝を祝します。鶴と亀が舞を奏上すると、皇帝もそれに応えて喜び舞います。皇帝のふわりと風に舞う衣を思い描いて、ご覧ください。

〈君の齢も長生殿に還御なるこそ　めでたけれ

■仕舞　東北（とうぼく）　シテ：和泉式部

五番立では脇能に続いて憂物、または三番目物と呼ばれる優美な女性がシテの曲を置きます。能『東北』は三番目物に当たります。さっそうとした舞のあとはしっとりとした女性の舞をご覧いただきます。能のハコビ（歩み）は柔らかいもの程、内にぐっと力を溜めます。舞台は京都の鬼門を守る東北院、シテは和泉式部の霊ですが、主題は和泉式部の愛した和歌と、夜にもふくよかに香る梅の木です。

〈袖を連ね裳裾を染めて　色めく有様はげにげに花の都なり

■能　高砂（たかさご）　前シテ：尉（じょう）　後シテ：住吉明神　ツレ：姥（うば）
―八段之舞　ワキ：阿蘇宮神主友成　ワキツレ：従者　アイ：高砂ノ浦人

物語　九州阿蘇神社の神主友成は従者を伴い都への道中、播磨国高砂の浦で熊手と箒で松の木陰を掃く尉と姥（老夫婦）に出会います。尉と姥はこの国には言の葉の心が万物に有ると説き、常緑の松は特にめでたいものとして松の由緒を語ります。やがて尉と姥は住吉の神と高砂の神であると正体を明かし、住吉で待つと言い残して、小船で沖に消えます。残された神主も舟で住吉へ向かいます。住吉の岸では若々しい住吉明神が現れ、颯爽と神舞を舞い、悪魔を払いのけ、長寿を寿ぎ、平和で豊かな世を祝福します。

見どころ聞きどころ　高砂は有名な祝言曲です。長寿の象徴である尉と姥は後場で、颯爽とした若い神になり替わります。謡と謂えばコレと言える有名な言葉が全編に出てきます。

八段之舞　高砂の舞事（まいごと：囃子と舞の箇所）は通常、神舞（かみまい）は五段ですが、小書き（特殊演出）「八段之舞」が付くと、神舞が八段になり、さらに囃子に急激な緩急が付き、非常に難度の高い曲になります。囃子方四人とシテは互いの呼吸を探り合い、ひとつの舞台を作り上げて行きます。また、舞を際立たせる為に、演出上、舞以外の箇所を省略する事も有ります。

能楽堂でしか味わえない、一期一会の緊迫感に身を浸してください。

〈千秋楽は民を撫で　万歳楽には命を延ぶ　相生の松風、颯々の声ぞ楽しむ　颯々の声ぞ楽しむ